NIHON KOHDEN

エレクトロニクスで病魔に挑戦する日本光電
－事業概要と中期経営計画－

日本光電工業株式会社
（証券コード:6849）

2023年1月12日

経営戦略統括部　IRグループ
チーフマネジャ　梶山 菜都美

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

本日の内容

NIHON KOHDEN

1 会社概要・日本光電の歩み

2 日本光電の成長戦略

3 株主様への還元について

4 質疑応答

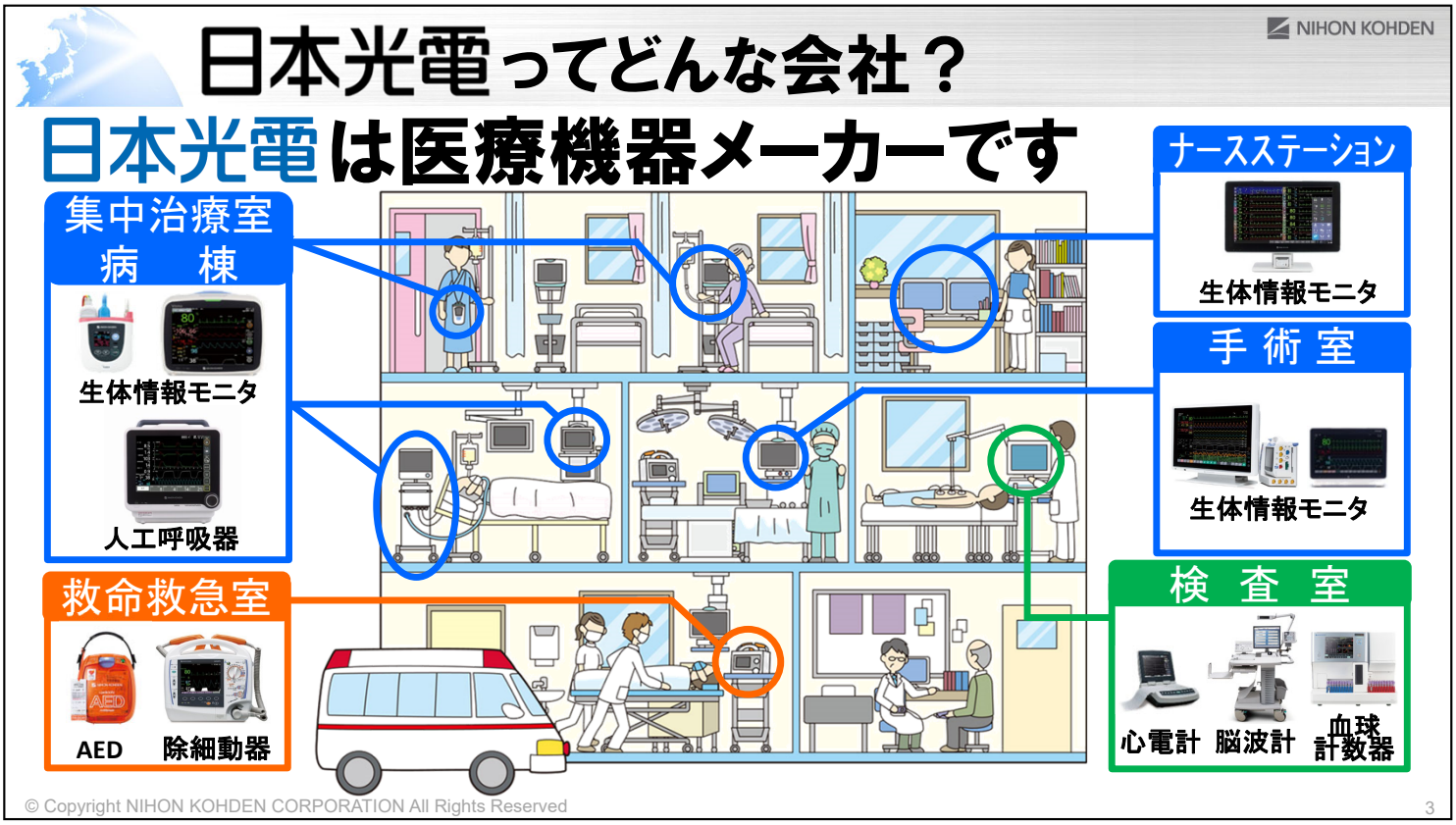
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

1 会社概要・日本光電の歩み

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 日本光電は、医療機器メーカーです。

- こちらは、病院の中をイラストにしたものです。

- 日本光電では、病院の検査室で使われる機器として、心電計、脳波計、血球計数器などを提供しています。

- また、手術室、集中治療室、病棟では、生体情報モニタ、人工呼吸器が使われています。

- さらに、救命救急室などで使われる医師向けの除細動器も開発しています。病院の他にも、街中に設置されているAED（自動体外式除細動器）を提供しています。

- このように、日本光電は、幅広い医療機器の開発・製造・販売を行っています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

会社概要

NIHON KOHDEN

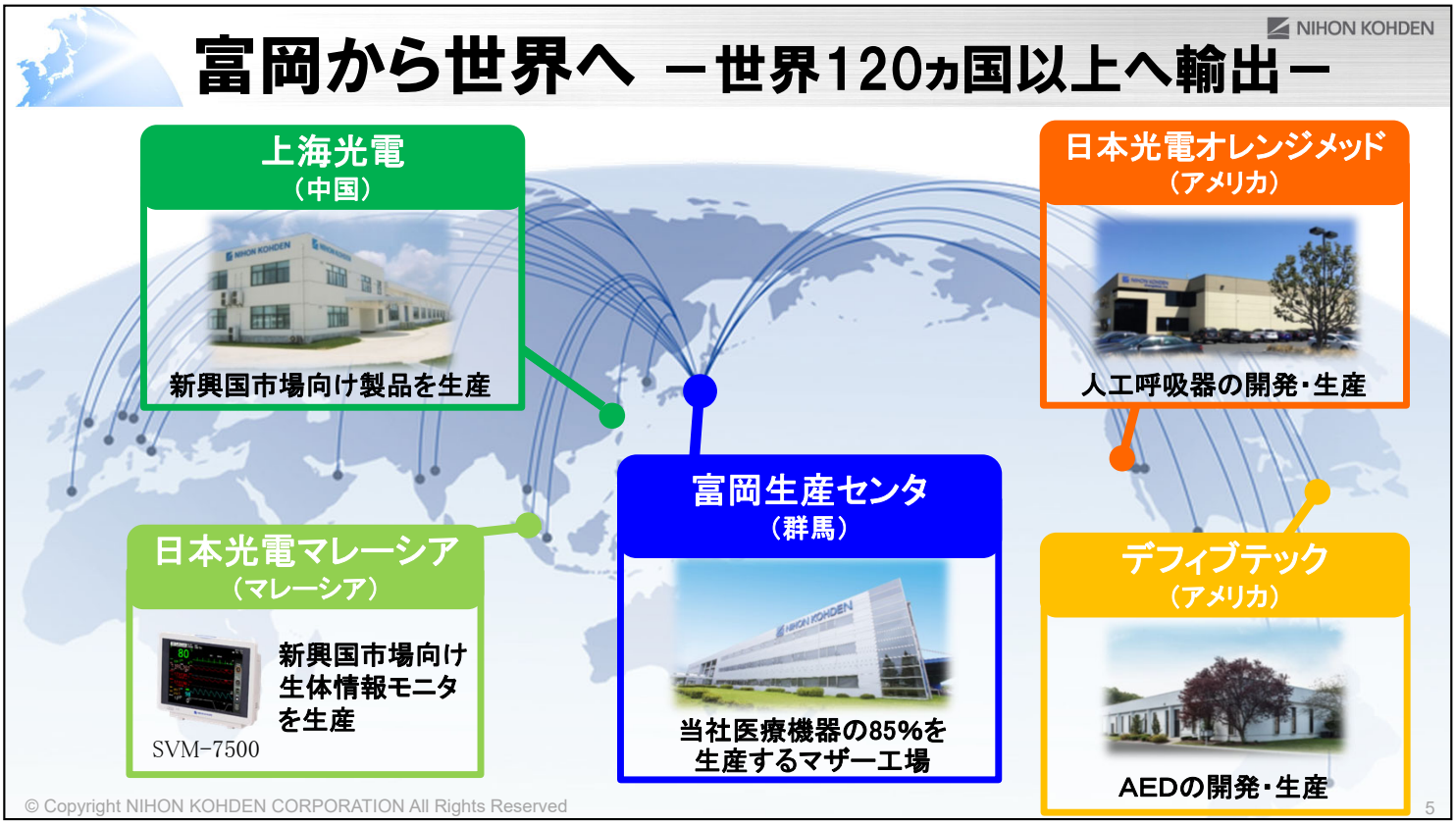
会社名	日本光電工業株式会社
設　立	1951年8月
本　社	東京都新宿区西落合1-31-4
資本金	75億4千4百万円　（2022年3月31日現在）
従業員数	連結5,639名　（2022年3月31日現在） 国内4,036名、海外1,603名
上場取引所	東証プライム 【証券コード:6849】

代表取締役 社長執行役員
荻野 博一

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- こちらは、日本光電の会社概要です。
- 会社名は日本光電工業株式会社、呼称は日本光電です。
- 設立は1951年で、今年で72年目を迎えています。
- 写真の人物が社長の荻野 博一で、創業者の孫にあたります。
- 本社は東京都新宿区にあり、資本金は75億円です。
- 従業員数は連結で5,639名、このうち1,603名が海外の構成となっています。
- 現在、東証プライムに上場しており、証券コードは6849です。
  是非、このコードを覚えていただければ幸いです。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- こちらは、日本光電の生産体制です。

- マザー工場である富岡生産センタは、群馬県富岡市、
世界遺産として有名な富岡製糸場の近くにあります。
こちらで、自社製品の約85%を生産しています。

- 中国、マレーシアでは主に新興国市場向けの製品を生産しているほか、
アメリカにも2ヵ所の生産拠点があり、人工呼吸器やAEDを生産しています。

- これらの生産拠点から世界120ヵ国以上へ製品をお届けしています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

経営理念

NIHON KOHDEN

病魔の克服と健康増進に
先端技術で挑戦することにより
世界に貢献すると共に
社員の豊かな生活を創造する

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- こちらは、日本光電の経営理念です。

- “病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより
世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する”

- この経営理念のもと、一つでも多くの革新的な医療機器を開発し、
医療現場や患者さんにお届けすることで、社会に貢献していきたい
というのが我々の想いです。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

創業時から受け継ぐ想い

創業者
医学博士 荻野 義夫

「一人の医者が救える命には限りがある。しかし、医療機器なら、それを世界中に広めることで限りない人々に貢献できる。」

わずか12名で発足

「**『これは私達が開発したんだ』**と**世界に向かって**大きな声で言えるような機器を1つでも多く。」

「本当のユーザーは医師の向こう側にいる患者さんである。**患者さんに優しい機器を**。」

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 創業時について、少しご紹介します。

- 写真の人物が創業者の荻野 義夫です。
  荻野はもともと工学部出身で、陸軍にて兵器開発に携わっていました。
  戦後、医学部に入り直し、工学と医学の造詣を深め、医用電子機器の開発に志を立てました。医師になる道もありましたが、
  「一人の医師が救える命には限りがある。しかし、医療機器なら、それを世界中に広めることで、限りない人々に貢献できる」
  という想いから日本光電を立ち上げました。

- この想いに賛同したのが左下の12名です。
  当初は無給であったと聞いています。

- 創業当時から世界への輸出を目指すとともに、
  「患者さんに優しい機器をつくろう」という強い想いで
  開発に取り組んできました。
  創業当時の想いは、現在も日本光電の中に受け継がれています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

最初は脳波計

NIHON KOHDEN

1951年

世界初

全交流
直記式
脳波装置

現　在

世界的な脳波計メーカー

世界中の研修医を受け入れる
米国トップクラスの病院が当社
の脳波計を使用

第4位：ジョンズ・ホプキンス

第7位：クリーブランド クリニック

※全米病院ランキング　神経内科・脳神経外科部門（2021-2022年）

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 日本光電の医療機器メーカーとしての歴史は、脳波計から始まりました。
  1951年創業の年に、世界初の「全交流直記式脳波装置」を開発しました。

- 脳波計は、脳の電気信号を計測し、てんかんなどの診断に用いられます。
  それまでの脳波計は電池で動くものだったため、検査の途中で
  電池交換をしなければなりませんでした。
  しかし、全交流直記式は、コンセントから電源を取るため、
  検査を中断せずに行うことができるようになりました。

- その後も世界に先駆けて新しい技術を搭載した脳波計を開発し、
  現在では世界中のお客様から脳波計のトップブランドとして
  認識いただいています。

- アメリカのジョンズホプキンス大学、クリーブランドクリニックといった
  有名な病院でも日本光電の脳波計を使用いただいています。
  こういった病院は、世界各国から医師を研修で受け入れています。
  研修で日本光電の脳波計を使い慣れた医師は、母国に戻った後も
  日本光電の脳波計を使いたいということで、波及効果につながっています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 日本光電の強みは、センサ技術です。
  センサは、医療機器と患者さんの接点となる重要な部分であり、
  創業以来、患者さんに優しい、苦痛を与えないセンサ技術の開発に
  注力しています。

- 現在のコロナ禍で、世界中の医療現場で活躍しているパルスオキシメータの
  原理を、1974年に世界で初めて発明・開発したのが日本光電です。
  クリップ状のセンサを指にはめるだけで、血液中の酸素飽和度を確認できま
  す。

- パルスオキシメータの開発以前は、毎回採血をする必要がありましたが、
  今では、簡単に、痛みもなく、連続して測定することが可能になりました。
  世界中の医療現場で使用されている技術です。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

パルスオキシメータの原理を開発

NIHON KOHDEN

2020年
当社の技術者 故 青柳卓雄 工学博士が
「米国麻酔科学会 栄誉賞」を受賞

工学博士 青柳 卓雄

「パルスオキシメータの開発と実用化」
により「第4回日本医療研究開発大賞
／内閣総理大臣賞」を受賞

表彰状

内閣総理大臣賞

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 発明者である青柳博士は、2020年に他界しましたが、
  その発明が世界の医療安全に大きく貢献したことが認められ、
  米国麻酔科学会から栄誉賞を受賞しました。
  また、「パルスオキシメータの開発と実用化」により、
  第4回日本医療研究開発大賞／内閣総理大臣賞を受賞しています。

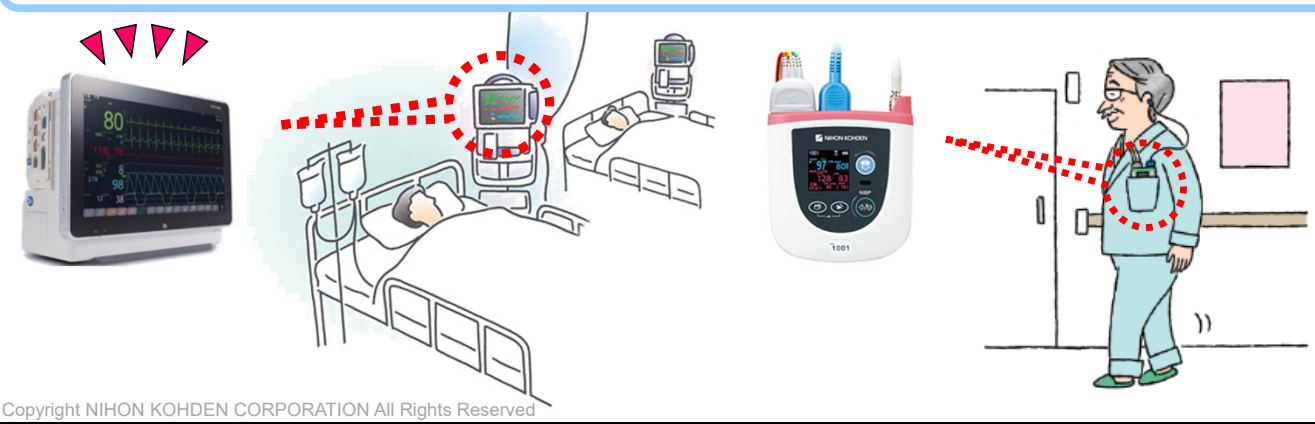
Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

主要製品① 生体情報モニタ

NIHON KOHDEN

患者さんを見守る役割

患者さんの血圧、心電図、呼吸などを連続的に測定。
血圧が急に下がった場合など、容態変化をアラームでお知らせ



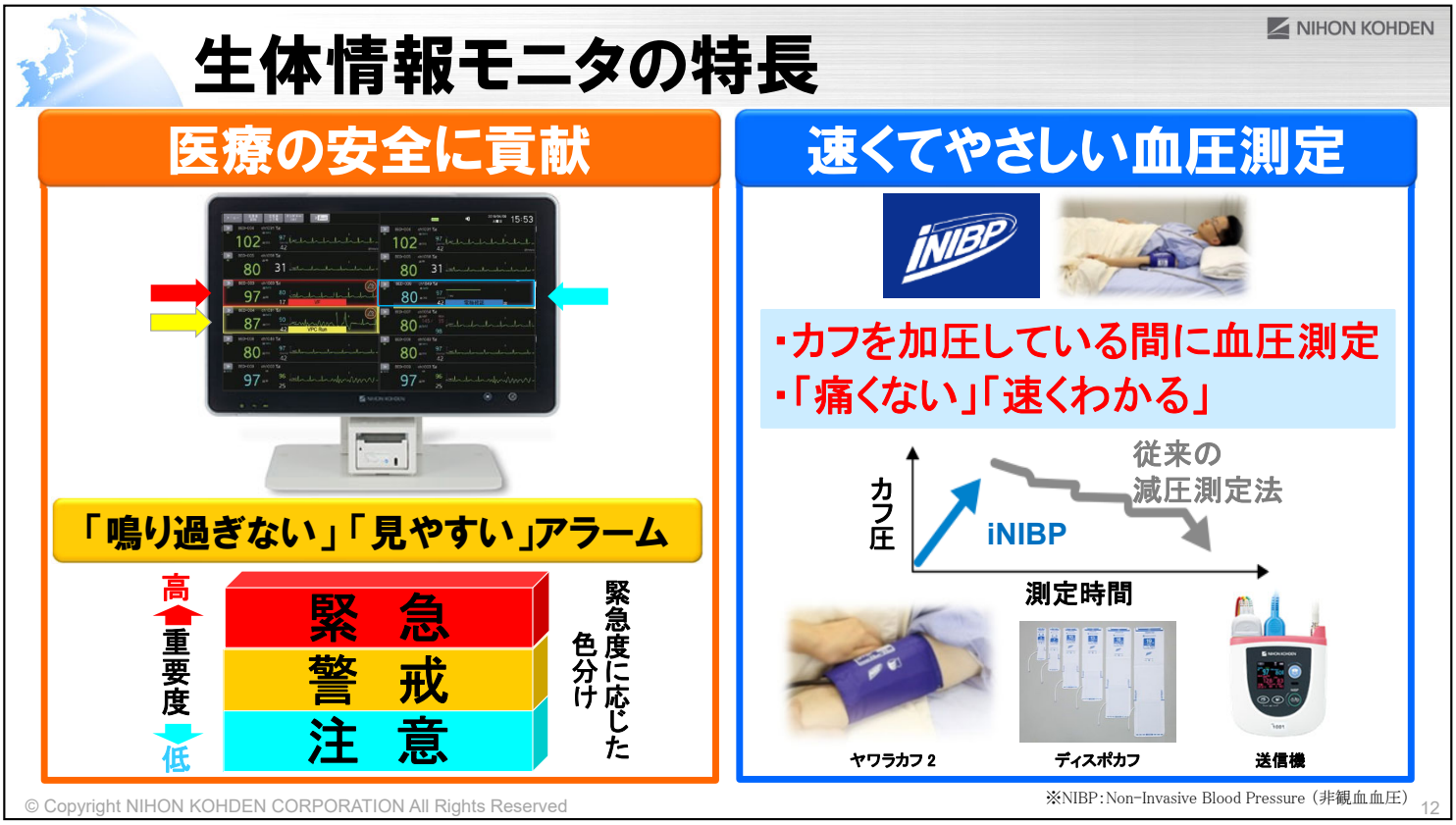
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- ここから主要製品を3つご紹介します。
  1つ目は、日本光電の一番の主力製品である生体情報モニタです。

- 生体情報モニタは、患者さんの血圧や心電図、呼吸などを連続的に測定し、
  容態に変化があった際にアラームを鳴らしてお知らせする装置です。

- スライド左側のようにベッドのそばに設置するタイプと、
  右側のように患者さんが携帯できるタイプがあります。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 生体情報モニタは、患者さんの容態変化をアラームで医療従事者にお知らせすることから、患者さんの安全に関わる、非常に重要な役割を担っています。
日本光電では、アラームの信頼性を高める技術開発に取り組んできました。
また、アラームの緊急度が一目で分かるように、表示を工夫しています。
一番緊急度が高いものは赤色、その次が黄色、その次が青色で、
音もそれぞれ変えています。

- 生体情報モニタのもう一つの特長は、日本光電独自の血圧測定方式です。
腕に巻くカフを締め付けすぎず、短時間で測定できる技術により、
患者さんにも看護師さんにも優しい血圧測定を実現しています。
さらに、カフ自体も改良し、手術などで頻繁に血圧測定が必要な場合でも
皮下出血が起こりにくい工夫をしています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

主要製品② AED（自動体外式除細動器）

NIHON KOHDEN

国内唯一のAEDメーカー

日本企業ならではの細やかな心配りで、AEDの普及に貢献

2004年7月から一般市民も使用できるようになり、様々な施設への導入が進んでいます

全国でAED講習会を実施

東京マラソン2021をAEDでサポート

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 2つ目は、AEDです。
  日本光電は国内唯一のAEDメーカーで、
  オレンジ色のAEDが日本光電の製品です。

- 日本では、2004年7月から私たち一般市民でも使えるようになり、
  急速に設置が進みました。

- 日本光電は、AEDの普及に努めるだけでなく、
  全国でAED講習会を実施しています。

- AEDは音声ガイドに従って簡単に操作することができますが、
  実際の場面では1分1秒を争うことになります。
  いざというときに落ち着いて救命できるよう、
  是非AED講習会を受けていただければ幸いです。

- 日本光電では、2007年の第1回から東京マラソンをAEDで
  サポートしています。国内唯一のAEDメーカーとして、
  日本を救命先進国にしたいと願っています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

主要製品③ 人工呼吸器

NIHON KOHDEN

コロナ禍において世界中で需要が増加

重症患者さん向け

気管挿管型

- 肺保護換気機能を訴求
- 医療従事者の感染リスクを低減

Protective Control™

軽症・中等症患者さん向け

マスク型

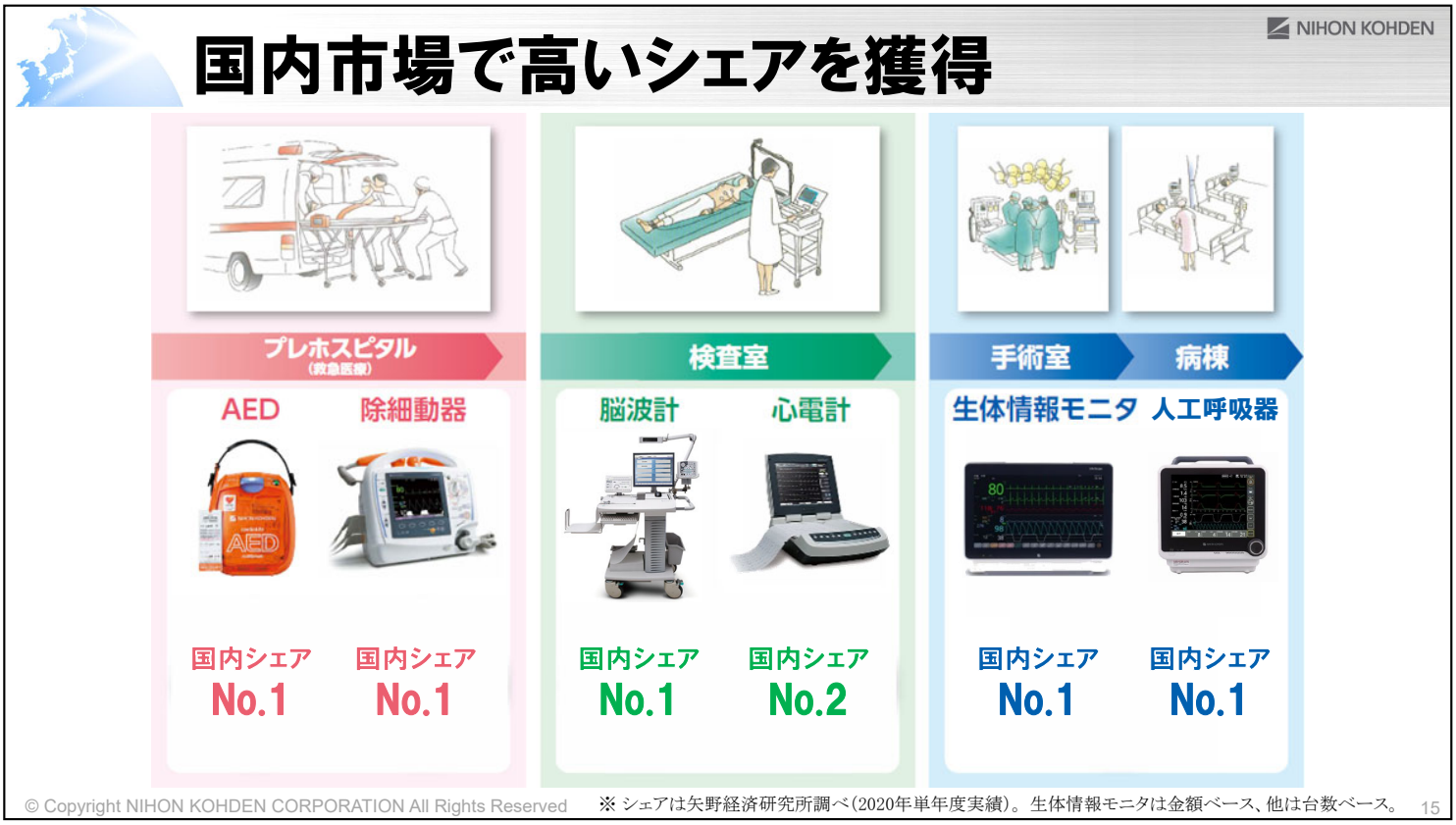
- ハイフロー酸素療法の提供
- マスクのフィッティング性を向上

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 3つ目は、人工呼吸器です。
  2019年度に、当社初の自社製人工呼吸器2機種を発売しました。
  重症患者さん向けの気管挿管型人工呼吸器と、
  軽症・中等症患者さん向けのマスク型人工呼吸器です。

- 発売後の2020年から予期せず始まったコロナ禍では、人工呼吸器の需要が世界的に増加しました。現在も、世界中の医療現場で患者さんの治療に用いられています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 主要製品としてご紹介した生体情報モニタ、AED、人工呼吸器に加え、脳波計や除細動器においても、日本光電は国内トップシェアをいただいています。

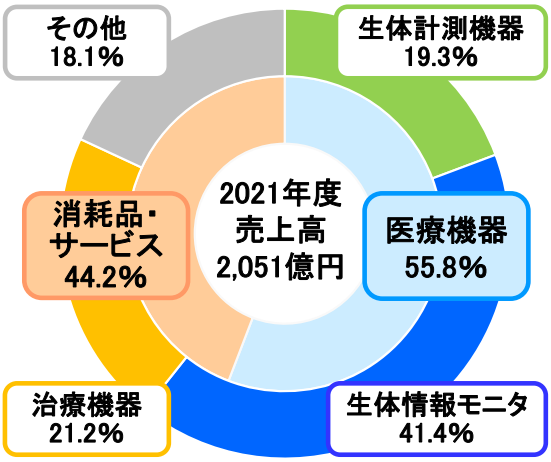
- 国内市場において高いシェアを獲得していることは、一つひとつの製品に対するお客様の評価と信頼の積み重ねの結果と考えています。これからも、お客様のご期待に沿えるよう、高品質な製品・サービスをご提供します。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

安定した収益基盤

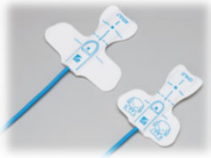
NIHON KOHDEN

✓ 医療機器を用いた検査・治療に必要な消耗品
✓ 医療機器の安全な使用に不可欠な設置工事・保守サービス

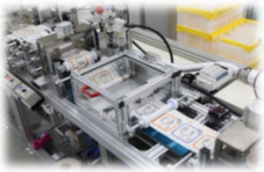


消耗品も自社で開発・生産

心電図電極


SpO_2センサ

CO_2センサ


AED用電極パッド

試薬

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 医療機器をご購入いただいた後に、患者さんごとに使用される消耗品や、安心してお使いいただくための保守サービス等を提供していることも日本光電の強みです。連結売上高の44%を占める消耗品・サービスが、安定した収益基盤となっています。

- 消耗品には、生体情報モニタで使われる心電図電極やSpO_2/CO_2センサ、AEDの電極パッド、血球計数器の試薬などがあります。

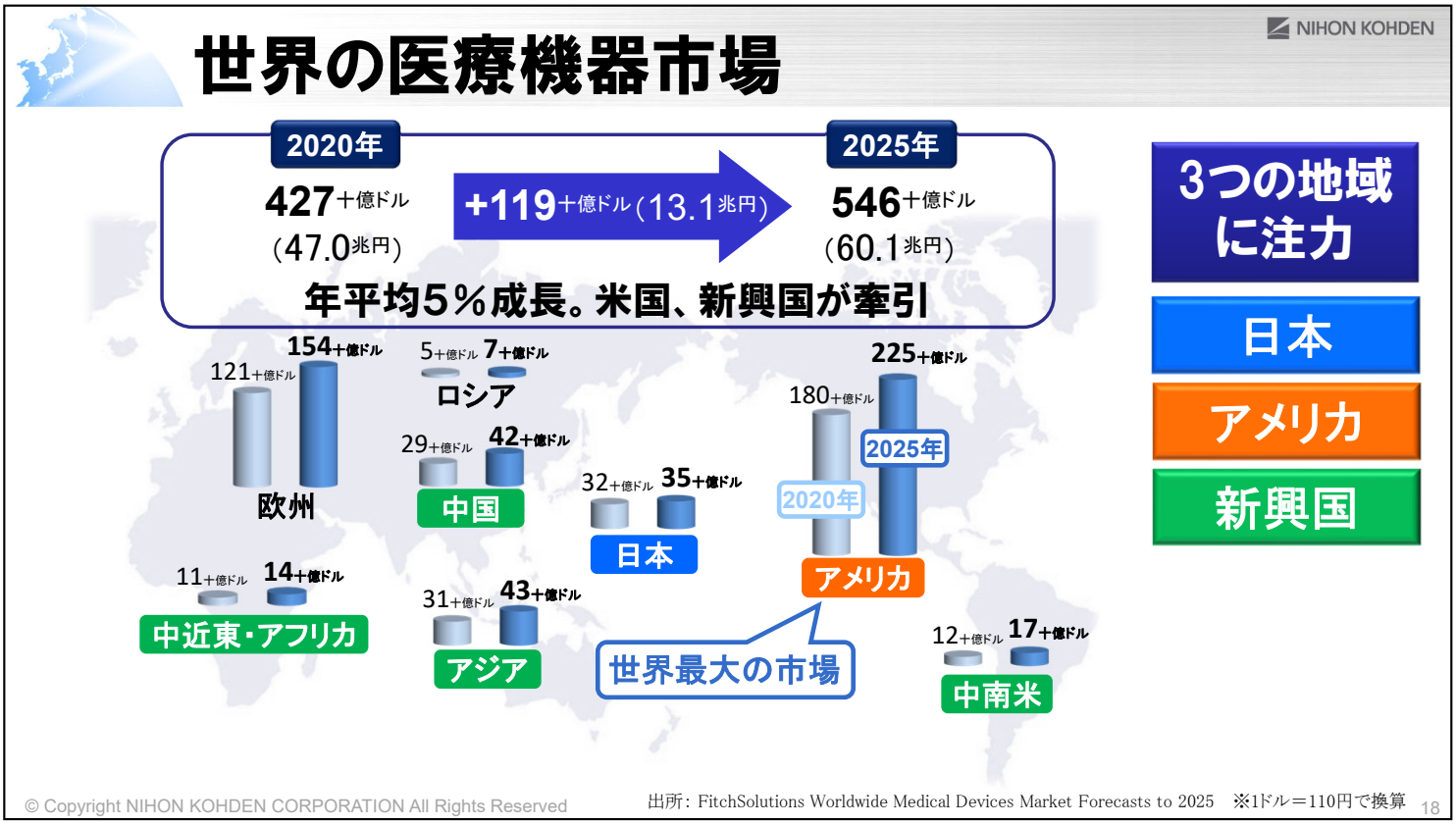
- 消耗品も自社で開発・生産し、医療現場のニーズに即した工夫・改善を行うことで、顧客満足度向上につなげています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

2 日本光電の成長戦略

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

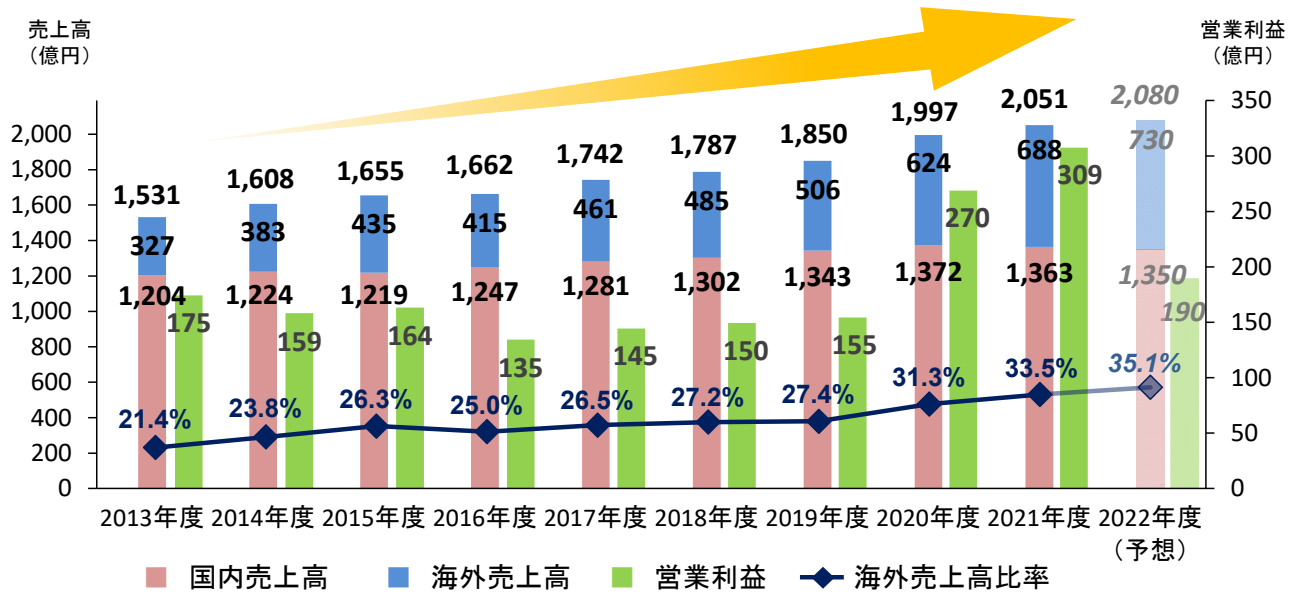


- 世界の医療機器市場は、2020年の47兆円から2025年には60兆円となり、年平均5%で成長すると見込まれています。

- アメリカと中国など新興国市場が伸びを牽引すると予想されることから、日本光電では、日本に加えて、アメリカ、新興国における事業基盤の強化に注力しています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

業績推移（2013年度～）



ROE	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	（年度）
	15.0%	11.9%	10.7%	9.1%	8.6%	9.9%	8.3%	14.0%	15.9%	

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- こちらは、過去10年間の業績推移です。
  独自技術を強みとして、着実に事業を拡大してきました。

- 現在、売上高の約7割が国内ですが、
  近年は、青色の棒グラフの海外売上高が伸びています。

- 営業利益につきましては、2014年度以降、海外での先行投資に加え、
  研究開発費などの販売管理費が増加した影響で停滞していましたが、
  2017年度からは増益に転じています。

- 2020年度、2021年度はコロナ禍で生体情報モニタや人工呼吸器の需要が
  国内外で急増したことから、２年連続で売上、利益ともに過去最高を更新しました。

- 2022年度の見通しは、売上高2,080億円、営業利益190億円です。

- 短期的にはコロナ禍の収束による反動はあるものの、
  中長期的な事業成長力は着実に向上していると考えています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

日本光電を取り巻く環境変化

NIHON KOHDEN

COVID-19の感染拡大

- ＋ 医療提供体制の重要性を再認識
- － 医療従事者の感染・負荷が増大、病院の経営悪化が課題

医療のDXの加速
テレメディスン、遠隔ICU等

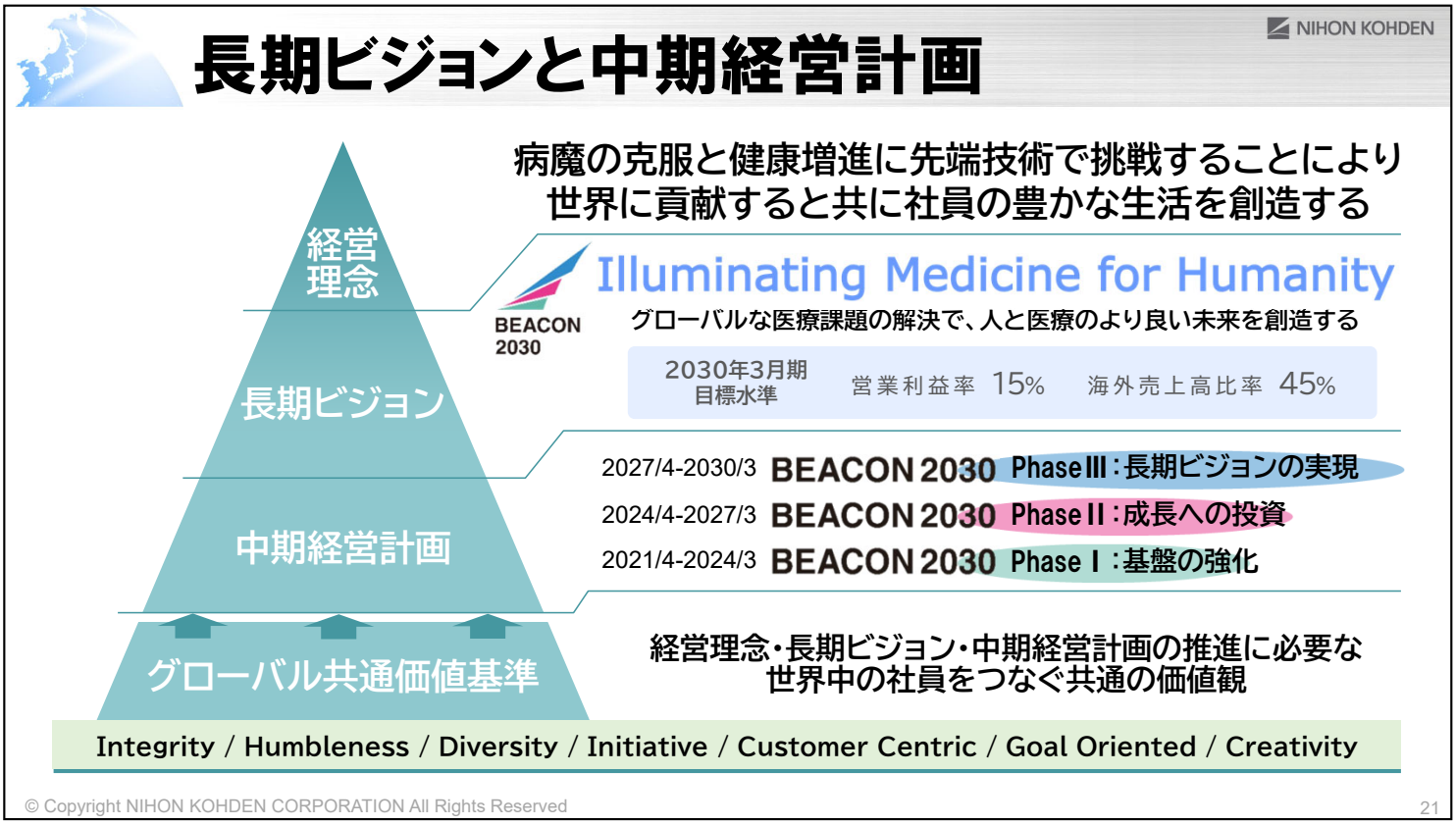
新規参入の激化

サイバーセキュリティなど法規制の厳格化

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- コロナ禍を経て、日本光電を取り巻く市場環境は大きく変化しています。
- パンデミックの経験から、世界各国で医療提供体制の重要性が再認識されています。一方で、医療従事者の負荷の増大や、患者さんの受診抑制の長期化による病院経営の悪化が課題となっています。
- 感染予防や業務効率の視点からは、テレメディスンなど、医療のDX（デジタルトランスフォーメーション）が加速しており、今後もこの動きが続くと見ています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 2030年に向けて日本光電があるべき姿を示した長期ビジョン「BEACON 2030」では、『グローバルな医療課題の解決で、人と医療のより良い未来を創造する』ため、グローバルな高付加価値企業への変革に取り組み、2030年3月期に、営業利益率15%、海外売上高比率45%を目指しています。

- 10年間を3つのフェーズに分け、フェーズ毎のテーマである基盤の強化、成長への投資、長期ビジョンの実現に取り組みます。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

中期経営計画＜基盤の強化＞（2021/4-2024/3）

NIHON KOHDEN

BEACON 2030 Phase I

事業と企業活動を通じてサステナビリティを推進

経営
コンプライアンスの徹底とグループガバナンスの一層の強化により、経営基盤を強化する。

事業
既存事業の収益性を改善することで得た原資により、戦略的な先行投資を実施し、新たな成長への種を蒔く。

組織
グローバルSCMの構築とコーポレートの主要機能の強化により、グローバル成長の礎を築く。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

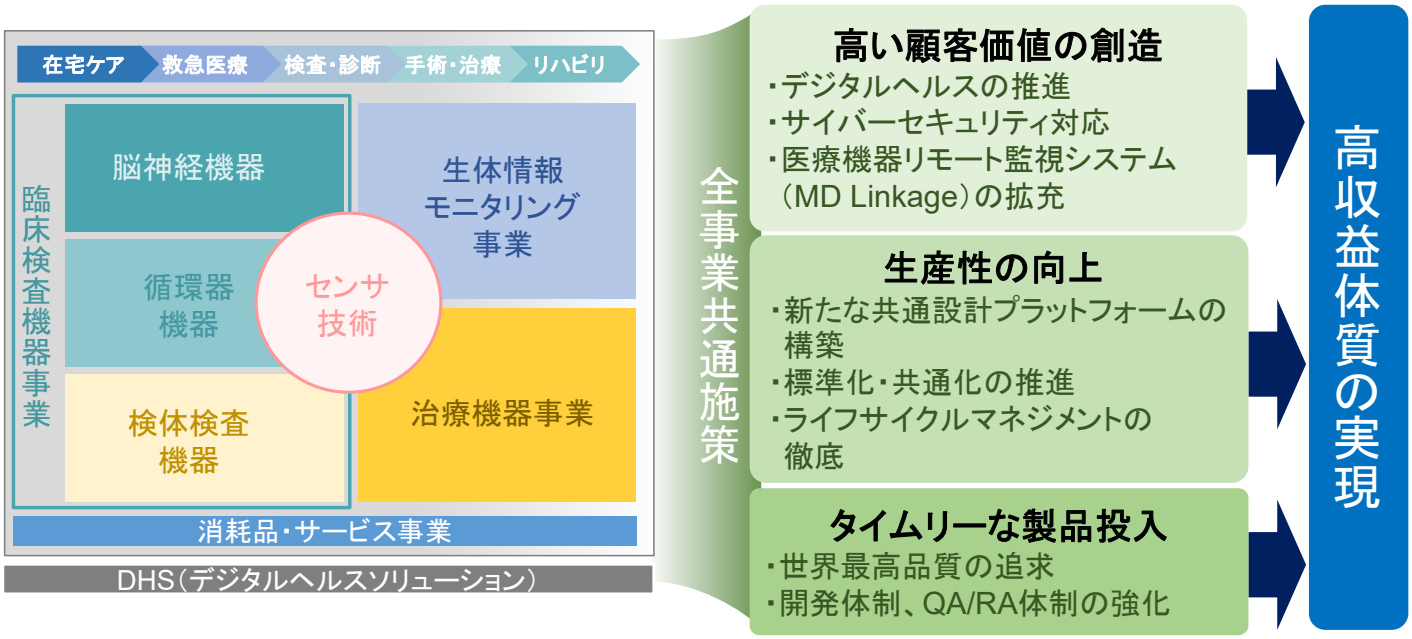
- 第1フェーズである3ヵ年中期経営計画は、2021年4月にスタートし、今年度は2年目にあたります。

- 事業と企業活動を通じてサステナビリティを推進するとともに、経営、事業、組織の3つの視点から、さらなる成長のための基盤強化に取り組んでいます。

- 本日は、このうち、事業の視点における重点施策についてご説明します。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

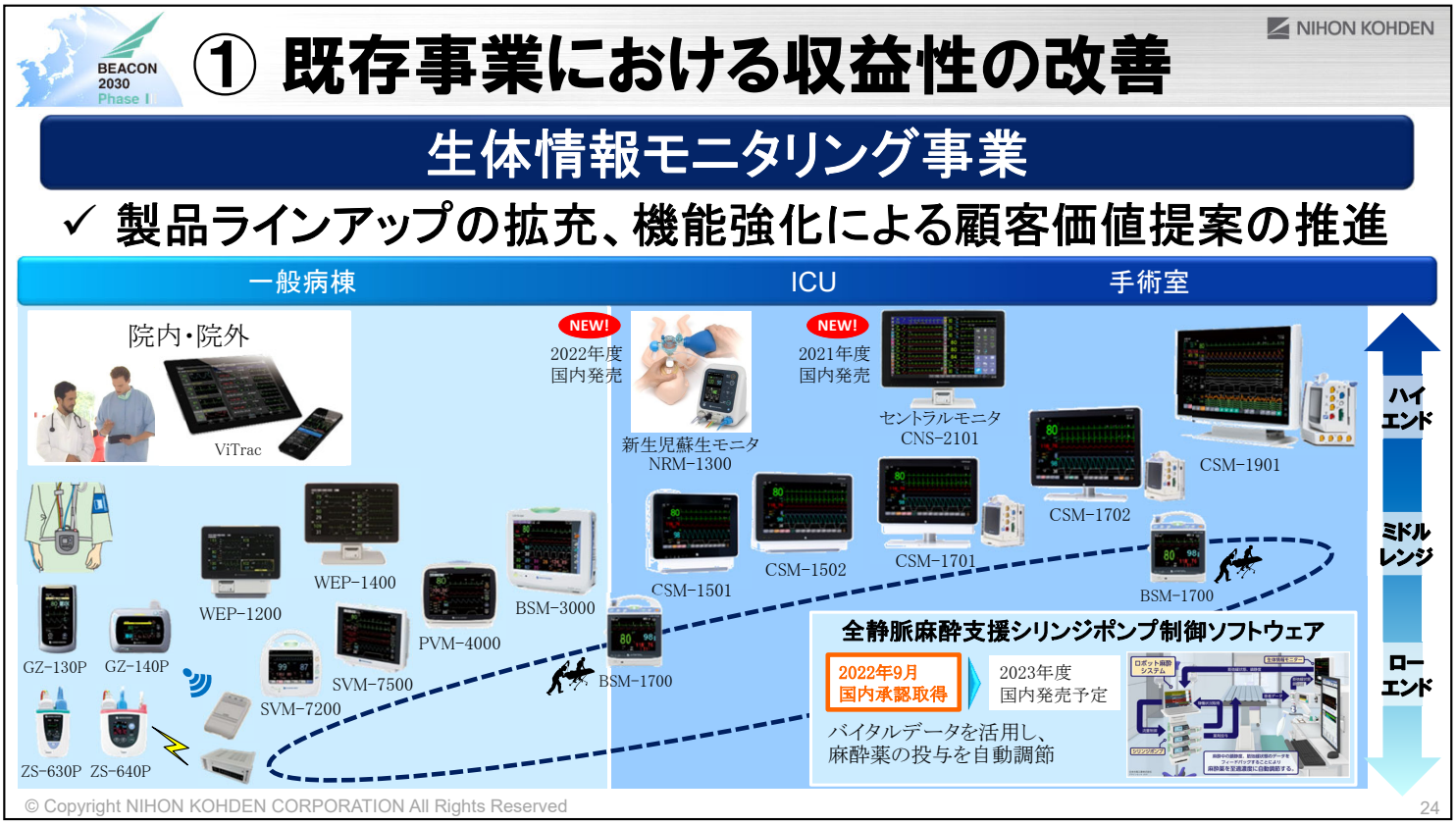
① 既存事業における収益性の改善



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 重点施策の1つ目は、既存事業における収益性の改善です。
  全事業共通の施策としては、高い顧客価値の創造、生産性の向上、
  タイムリーな製品投入に取り組み、高収益体質の実現を目指しています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 生体情報モニタリング事業では、製品ラインアップの拡大を進めています。

- 2022年度には、これまでにない新製品として、新生児蘇生に特化したモニタをまず国内で発売しました。今後、新興国における新生児の死亡率や重篤な後遺症の低減を目指します。

- 手術中の医療安全、業務効率の向上に寄与するソリューションとして、生体情報モニタで取得した患者さんのバイタルデータを活用し、麻酔薬の投与を自動調節するソフトウェアの承認を2022年9月に国内で取得しました。
現在、発売に向けて準備を進めています。

- 日本光電は、手術室、ICU、病棟など、幅広い医療現場で使われる製品ラインアップを持っており、ネットワークにつなげることで、病院全体の患者さんの状態を集中的にモニタリングすることが可能になります。
大規模ネットワークに対応したモニタリングソリューションを提供できることが当社の強みの一つです。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 消耗品事業では、コロナ禍で設置台数が拡大した生体情報モニタおよび人工呼吸器の消耗品の需要増加に備え、生産拡大とコストダウンを推進しています。

- SpO_2プローブに関しては、自動化生産ラインの増設準備を進めています。

- 筋弛緩モニタリング専用筋電図電極については、医療安全のため、手術時の筋弛緩モニタリングの需要が日本と米国で高まっていることから、生産ラインを増設するとともに、自動化生産に着手しています。

- また、昨年12月末に発表しましたとおり、埼玉県鶴ヶ島市に、新しい工場用地を取得する予定です。こちらに、センサ類など消耗品の製造および自動化生産技術の研究開発を行うための新工場を建設します。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

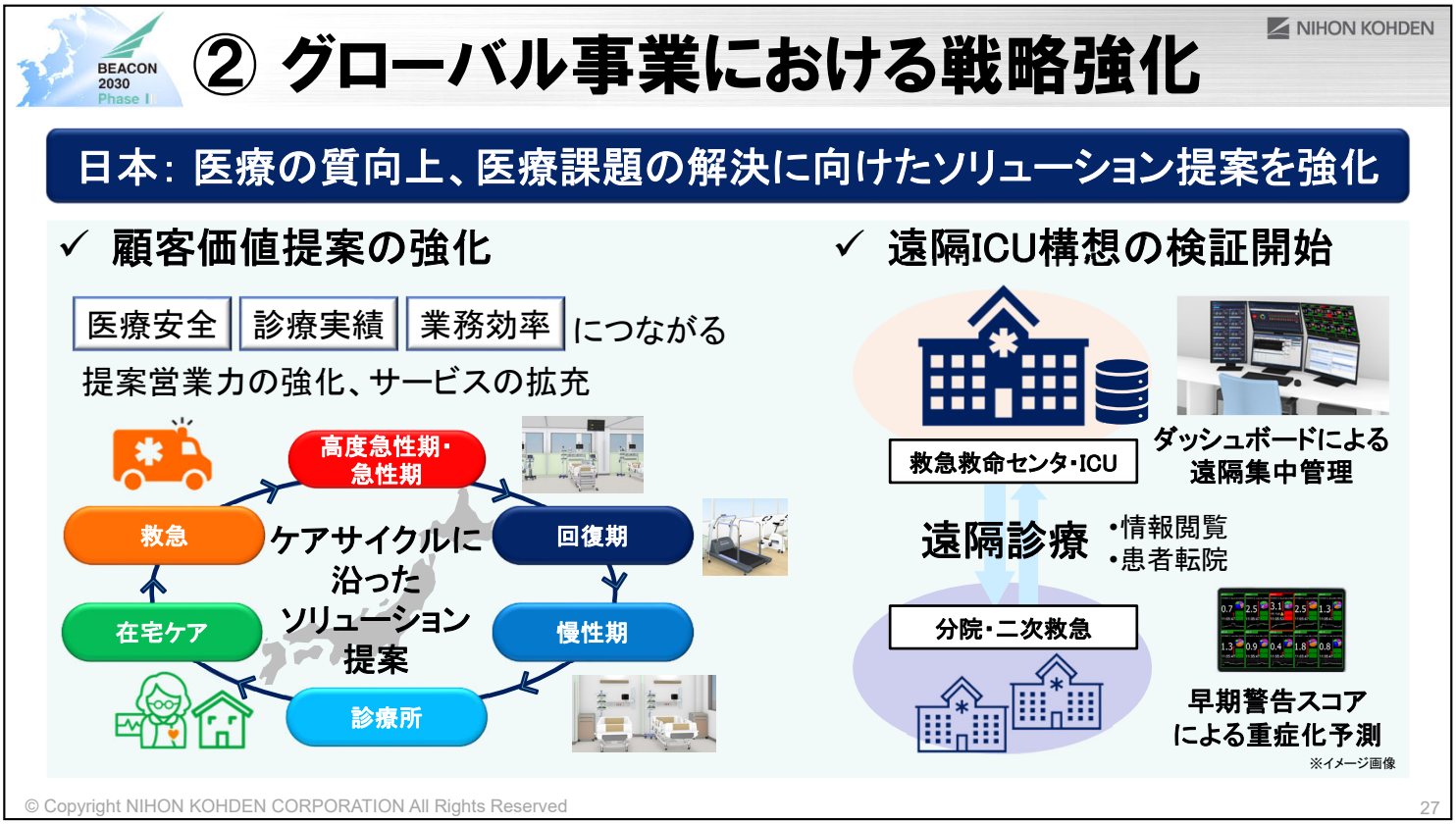
- サービス事業においては、医療機器リモート監視システムを提供しており、接続機種の拡充に取り組んでいます。

- 2018年度から血球計数器でサービスを開始しましたが、前期末時点で5機種1,700台の接続実績があり、機器の異常や故障が発生した場合に速やかなサポートを実施できることから、好評をいただいています。

- 2022年4月からは、人工呼吸器との連携も開始しました。
点検結果をクラウドサーバに自動送信することで、お客様の業務負荷軽減、そして、遠隔での動作状況の確認により、感染予防などの医療安全につながると期待しています。

- 今後は、接続機種の拡充を検討するとともに、国内だけでなく新興国においても、血球計数器との接続テストを実施します。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 重点施策の2つ目は、グローバル事業における戦略強化です。

- 日本では、急性期医療から診療所、在宅ケアまで地域医療全体をカバーしており、医療安全、診療実績、業務効率の向上につながる顧客価値提案の強化に取り組んでいます。

- 当期は、高度集中治療体制の強化、限られた医療資源の有効活用を支援するために、遠隔ICU構想の検証を進めています。

- 下期には、患者さんの容態変化の監視を支援する新たなソフトウェアを上市しています。心拍数、SpO_2、血圧などのバイタルサインから独自のスコアを算出し、容態変化の早期発見と迅速な対応につなげます。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 米国は、世界最大・最先端の医療機器市場です。

- 脳神経機器、生体情報モニタ、治療機器の3つの事業に取り組んでいますが、新製品としては、上期に、サイバーセキュリティ対策を強化した中位機種ベッドサイドモニタを上市したほか、マスク型人工呼吸器を新たに投入しました。

- 米国では、大手病院グループが拡大する中、大規模ネットワークに対応したモニタリングソリューションの提案力を強化しており、生体情報モニタの市場シェア12%を目指しています。

- マスク型人工呼吸器については、グローバル市場のうち約6割が米国であることから、新製品の提案に注力し、シェア拡大を目指します。

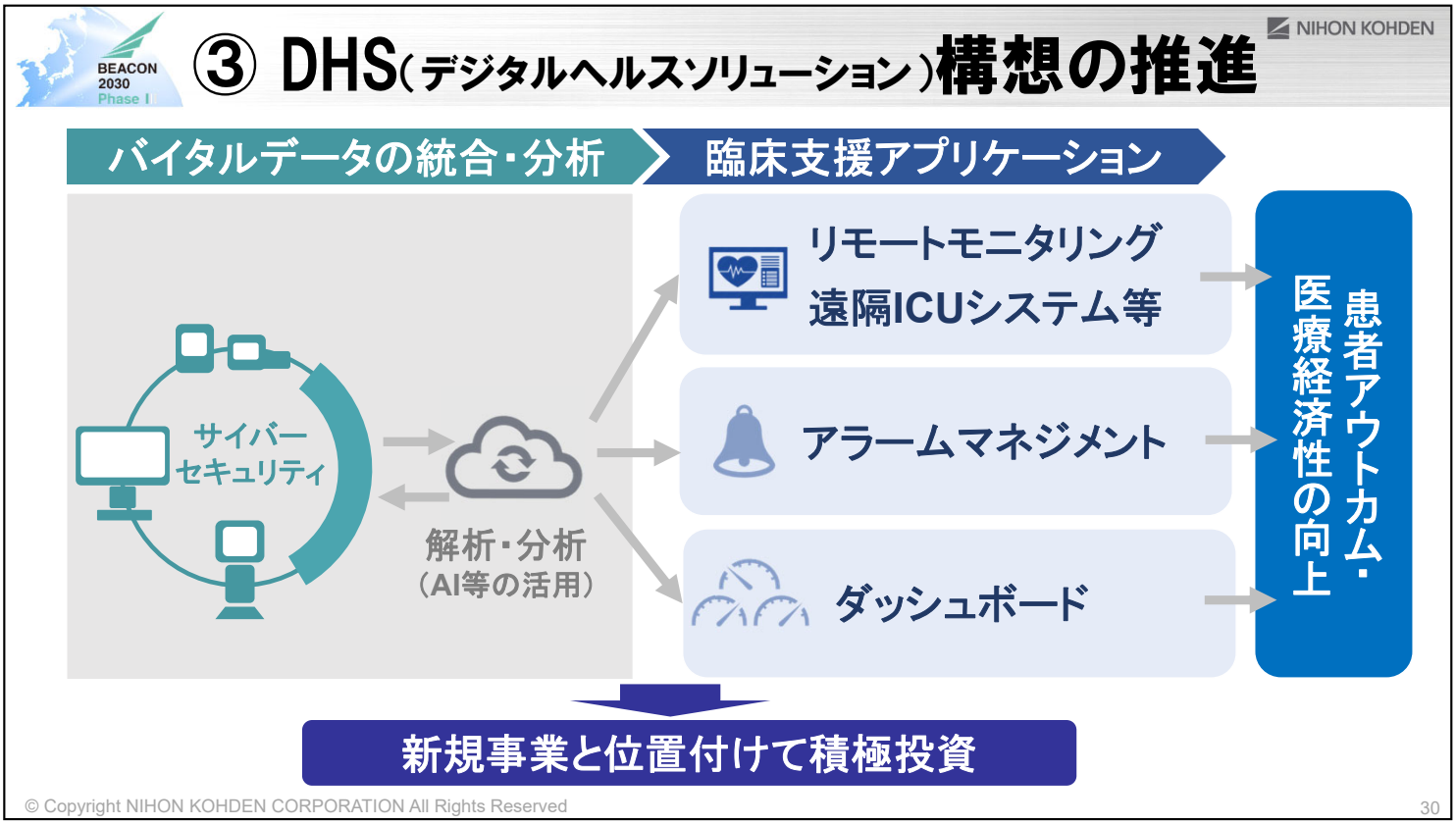
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 新興国では、ハイエンド市場には日本・米国で開発・生産した製品、ミドル・ローエンド市場には上海で開発・生産した製品を提供し、それぞれの市場ニーズに対応しています。

- 特に、国産優遇の動きが見られる中国市場においては、上海製品のラインアップ拡充を進めています。

- アジアで中国に次ぐ売上構成を占めるインドでは、血球計数器の設置ベース拡大をうけて、継続的な試薬需要の増加を見込んでいることから、新しい試薬工場を2024年春に稼働する予定です。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 重点施策の3つ目は、新規事業に位置付けているDHS(デジタルヘルスソリューション)構想の推進です。

- 日本光電では2030年に向けて、患者さんのデータをAIなどを活用して分析し、臨床に役立つアプリケーションを提供することで、患者さんの予後を改善するとともに、医療経済性の向上につなげたいと考えています。

- コロナ禍で医療のDXが加速する中、この分野の研究開発に注力しています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

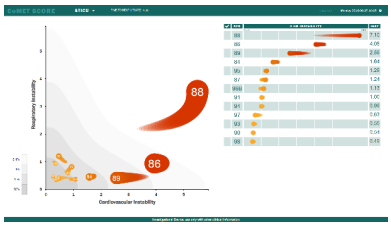
③ DHS構想の実現に向けた取り組み

NIHON KOHDEN

臨床支援アプリケーション

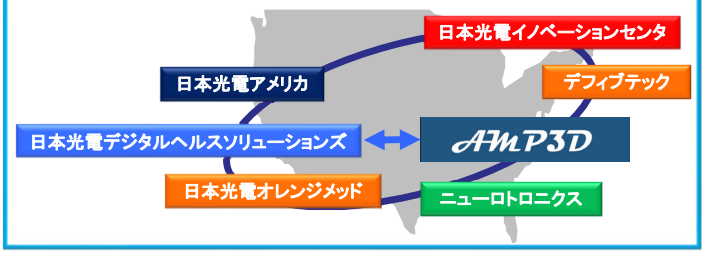
米国 AMP3D（アンプスリーディ）社を買収

- 本社：　米国バージニア州
- 設立：　2013年
- 代表者：　ケビン・パサレロ氏（社長兼CEO）
- 事業内容：患者容態管理のための
  アルゴリズム・ソフトウェアの研究開発



CoMET®: Continuous Monitoring of Event Trajectories
患者容態管理のためのアルゴリズム・ソフトウェア

- 当社のDHS（デジタルヘルスソリューション）構想と高い親和性
- 現地開発体制を強化



- 新生児向けの呼吸管理指標を追加
- 2022年度FDA申請

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- DHS構想の実現に向け、2021年８月に米国のAMP3D社を買収しました。AMP3D社は、患者さんの容態変化を可視化するためのアルゴリズムやソフトウェアの研究開発を行っており、FDA承認取得後に本格展開する予定です。日本光電のDHS構想と高い親和性があることから、米国での開発体制強化を期待しています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

③ DHS構想の実現に向けた取り組み

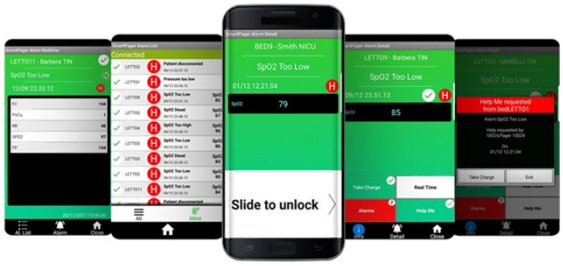
NIHON KOHDEN

臨床支援アプリケーション

イタリア Software Team社を買収

SOFTWARE TEAM

- 本社: イタリア・ミラノ
- 設立: 1988年
- 代表者: ロベルト・マジョーニ氏(CEO)
- 事業内容: 医用電子機器用ソフトウェアの開発・販売



- 当社のDHS(デジタルヘルスソリューション)構想と高い親和性
- 欧州市場における生体情報モニタ商談の提案力強化を期待

生体情報モニタ等のアラーム情報をスマートフォン等に転送

- アラーム見逃しの低減
- 迅速・適切な処置

医療の質向上

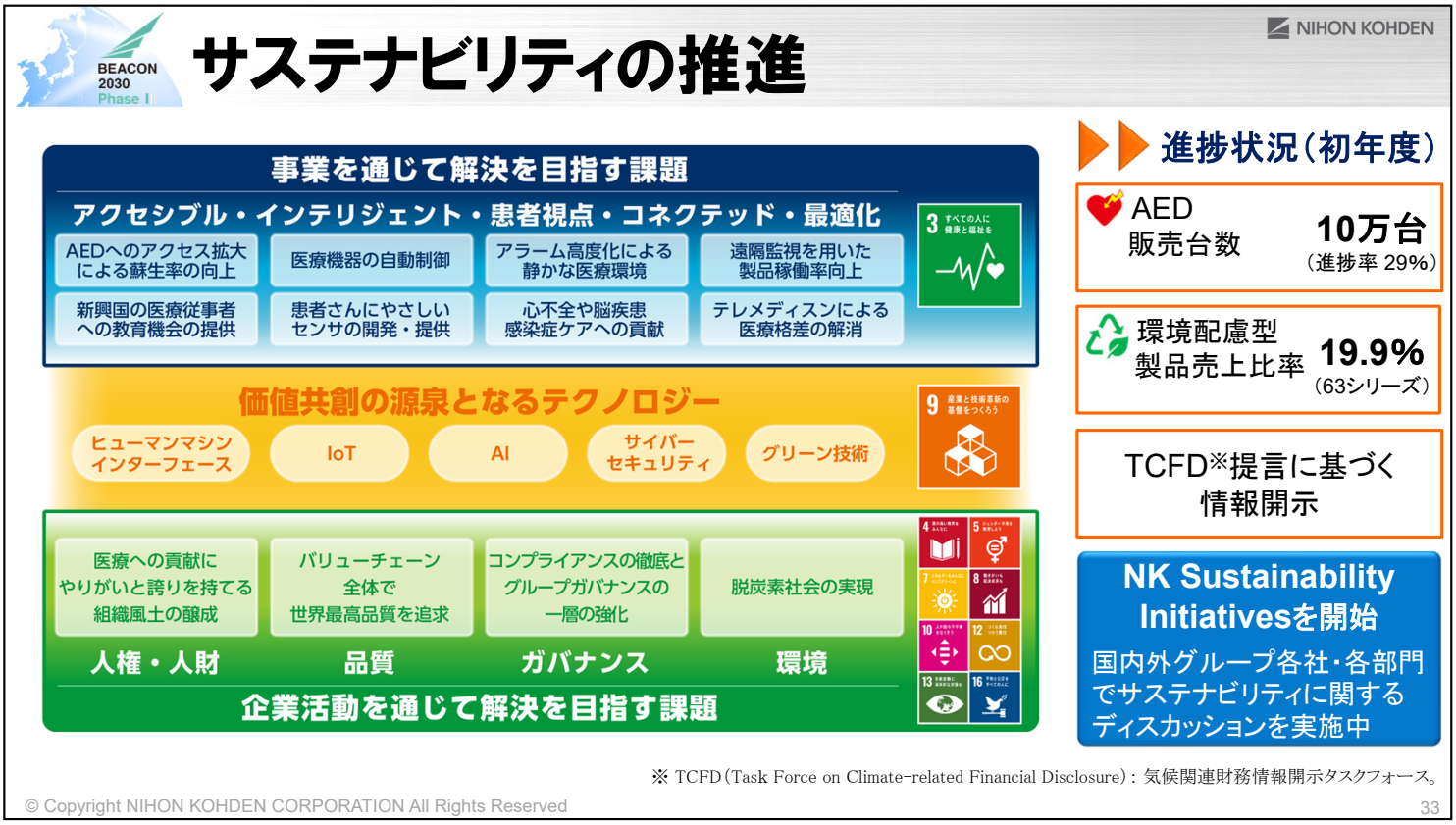
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 2022年11月には、イタリアのSoftware Team社を買収しました。
  Software Team社は、生体情報モニタなどの医療機器から取得したアラーム情報をスマートフォンに転送するソフトウェアを開発、販売しています。

- 当社の生体情報モニタシステムと統合し、高度なアラーム管理ソリューションを提供することにより、重篤なアラームの見逃しやアラーム疲労などの医療課題の解決につながることを期待しています。

- 本買収を通して、欧州を中心とした生体情報モニタ市場におけるシェア拡大を目指すとともに、DHS構想の実現に向けた取り組みを強化します。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 中期経営計画の最も重要なテーマは、事業と企業活動を通じたサステナビリティの推進です。

- 世界的な社会課題の解決やSDGsの達成に貢献するため、サステナビリティの重要課題を特定し、取り組みを強化しています。AEDへのアクセス拡大による蘇生率の向上など、当社だからこそできる課題解決に取り組んでいます。脱炭素社会の実現に向けては、環境配慮型製品の開発・販売に注力しているほか、TCFD提言に基づく情報開示を行うなど、取り組みを加速させています。

- また、全社員を対象としたサステナビリティ・ディスカッションを新たに開始しました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

経営目標値　2024年3月期

NIHON KOHDEN

売上高	1,970億円
国内売上高	1,340億円
海外売上高（海外売上高比率）	630億円（32.0%）
消耗品・サービス売上高比率	48%以上
売上総利益率	50%以上
営業利益（営業利益率）	200億円（10.2%）
親会社株主に帰属する当期純利益	138億円
ROE	10%

地域別海外売上高

米州	320億円
欧州	100億円
アジア州他	210億円

3ヵ年計画

研究開発投資	200億円程度
設備投資	140億円程度

想定レート：1米ドル＝102円、1ユーロ＝124円

粗利率50%以上、営業利益率10%以上を定常的に生み出せる企業体質への変革を目指す

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- こちらが、3ヵ年中期経営計画の経営目標値です。
- 2022年度の業績予想は、国内、海外ともに中期経営計画の経営目標値を上回る見通しですが、現時点で目標値の変更はしていません。
- 粗利率50%以上、営業利益率10%以上を定常的に確保できる企業体質への変革を目指し、特に、海外売上高比率、消耗品・サービス売上高比率の向上に注力しています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3 株主様への還元について

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

利益配分の基本方針

NIHON KOHDEN

利益配分の優先順位は、①将来の企業成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得

将来の企業成長に向けた投資	• デジタルヘルスソリューションを新規事業と位置付けて積極投資 • コーポレートDX推進、グローバルSCM構築のための設備投資			
研究開発	設備投資	M&A提携	人財育成	
配当	長期安定配当を継続	目標:連結配当性向30%以上		
自己株式取得	今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に検討			

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

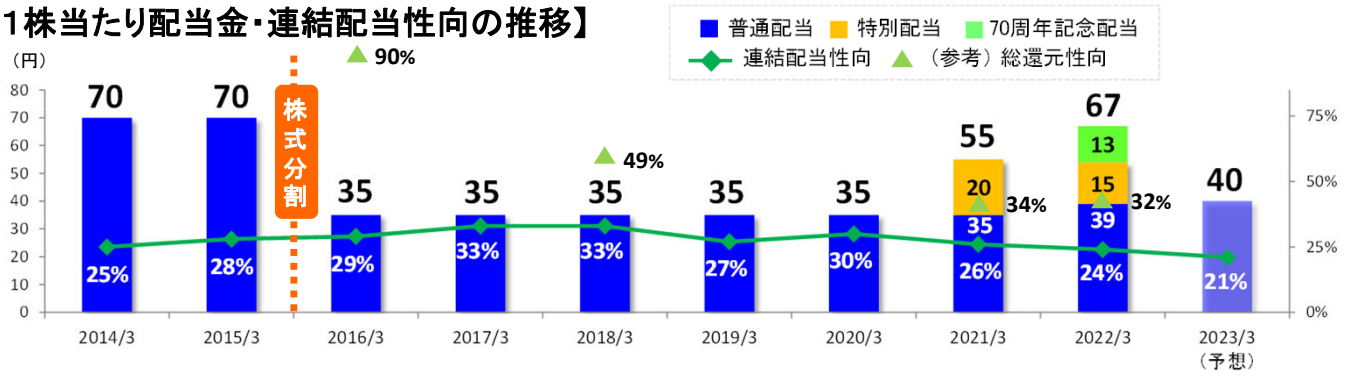
- 株主の皆様への利益還元は、当社にとって経営の最重要政策の一つです。
- 利益配分の優先順位は、まず、将来の企業成長に向けた投資、次に配当、そして自己株式取得です。
- 株主の皆様への還元につきましては、長期に亘って安定的な配当を継続することを基本方針にしています。連結配当性向は30%以上を目標としており、自己株式の取得については、機動的に検討しています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

株主様への還元

NIHON KOHDEN

【1株当たり配当金・連結配当性向の推移】



注）2015年4月1日を効力発生日として、株式1株につき2株の株式分割を実施。2014年度までの数値は、株式分割前の実際の配当金の額を記載。

自己株式の取得/消却	2022/3期 **18.9億円 取得** （総還元性向：32.2%）	2022年6月 **50万株を消却**	2022年9月末 **自己株式保有** **410万株**（持株比率：4.7%）
23/3期 配当（予想）	**年間配当金：40円**（配当性向：21.0%）	配当利回り： 1.3% （1月10日株価：3,150円）	

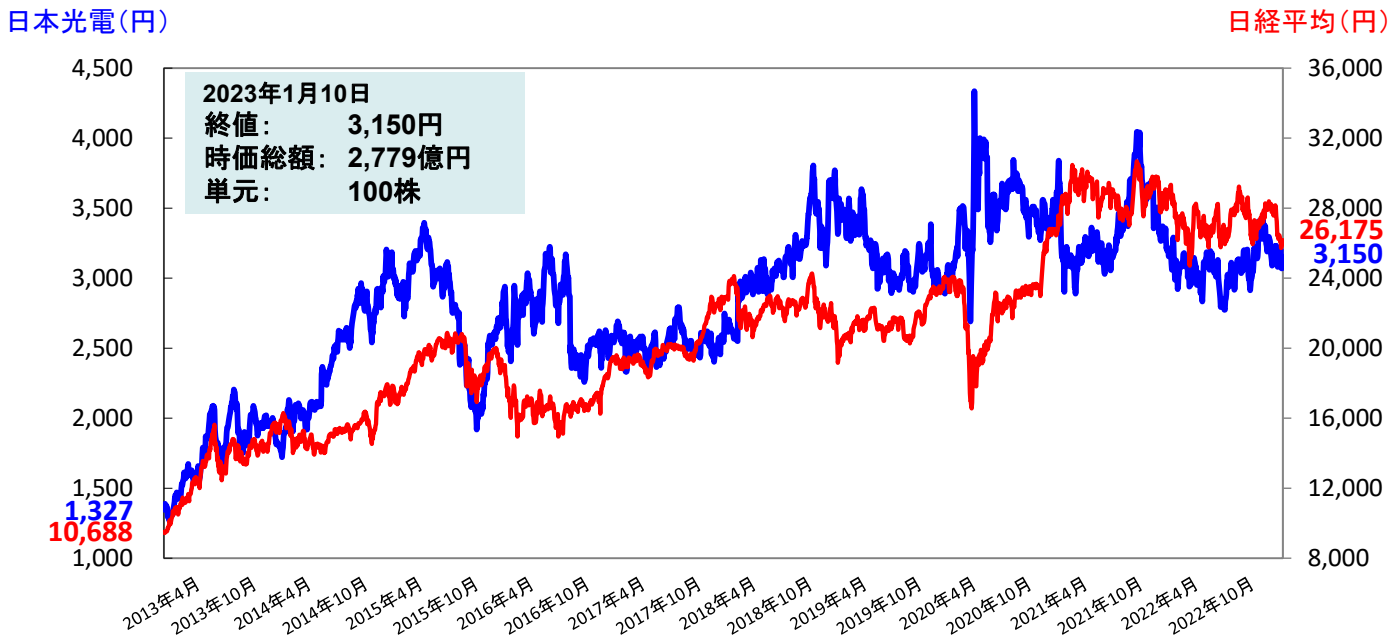
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 配当金の推移はご覧のとおりです。
  昨年度は、70周年を迎えたこと、業績が好調に推移したことを踏まえ、株主の皆様への還元として、普通配当39円に加え、70周年記念配当13円、特別配当15円を含む67円の年間配当金としました。また、自己株式につきましても取得しています。

- 2022年度の年間配当金は、1株当たり40円、配当性向は21%の予想です。
  株主還元につきましては、通期の決算が確定した段階で検討する予定です。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

株価推移（2013年1月4日～2023年1月10日）



※ 2015年4月1日を効力発生日として、株式1株につき2株の株式分割を実施。分割日以前の取引値についてもさかのぼって修正して記載。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- こちらは、株価の推移です。
  青色が日本光電の株価、赤色が日経平均を表しています。
  短期的な変動はありますが、着実に成長を続けていることが
  お分かりいただけるかと思います。

- 1月10日時点の株価は3,150円、単元株は100株ですので、
  31万円ほどでご購入いただけます。
  是非、ご検討いただけましたら幸いです。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

株式情報

NIHON KOHDEN

“ESG評価”

✓ FTSEの指数に選定

FTSE4Good　FTSE Blossom Japan　FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

✓ MSCI の指数に選定

2021 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

2021 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

“投資魅力の高い会社”

✓「JPX日経インデックス400」に採用

JPX-NIKKEI 400

“サステナビリティ格付け”

✓ ISS ESG Corporate Rating「プライム」に認定

Corporate ESG Performance　Prime　RATED BY ISS ESG

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 株式情報をご紹介します。
- 日本光電のESGに関する取り組みへの外部評価としまして、社会的責任投資の指標であるFTSEやMSCIの構成銘柄に選定されています。
- また、投資魅力の高い会社で構成されるJPX日経インデックス400にも初年度から継続採用されています。
- 2021年には、米国の議決権行使助言会社であるISSの責任投資部門によるESG格付けで最高位の「プライム」に認定されました。
- 今後も、事業と企業活動を通して、持続可能な社会の実現と持続的な企業価値の向上に取り組んでいきます。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

医療に国境はない

NIHON KOHDEN

「医療に国境はない」

国や主義を越えて
人の病をいやすため
先端技術で挑戦

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 「医療に国境はない」、これも創業者 荻野 義夫の言葉です。

- 一人でも多くの患者さんを救うために、国や主義を越えて先端技術で挑戦する、というのが日本光電の使命です。そのために、今後も革新的な医療機器を数多く開発し、提供していきたいと考えています。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。
同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。
従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合があります
ことをご承知おきください。
また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部
【連　絡　先】℡03-5996-8003

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved